

藤

枝

静

男

と郷里

作家が見つめた「むかしむかしの藤枝町」

スペシャルトーク

「父・藤枝静男を語る」

長女・安達章子さんをゲストに迎え、藤枝静男  
の人物や知られざる一面に迫ります！

12月9日(日) 午後2時～3時  
ところ／文学館講座学習室 ※要申込

平成24年

平成25年

11月13日(火)～1月24日(木)

- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日 月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）、12月24日(月)～1月4日(金)
- 入館料 大人200円、中学生以下無料（博物館・文学館共通）

藤枝市郷土博物館・文学館

静岡県藤枝市若王子500（蓮華寺池公園内） 電話054・645・1100

# ——青春と分かちがたく結びついている 少年時代の自分の日々とあの頃の藤枝の面影——

作家・藤枝静男は「一家団樂」「家族歴」など、郷里・藤枝を舞台にした作品を多く残しました。また、「むかしむかしの藤枝町」や「少年時代のこと」と題した随筆でも、自身が少年時代を過ごした当時の藤枝の様子を細かく記しています。その文章は、当時の町並みや結核に苦しむ家族の様子を静かに描写し、深く自己を見つめることへとつながっていきます。今回の企画展では、藤枝静男と郷里に焦点をあて、ふるさと藤枝や家族への想いを紹介します。

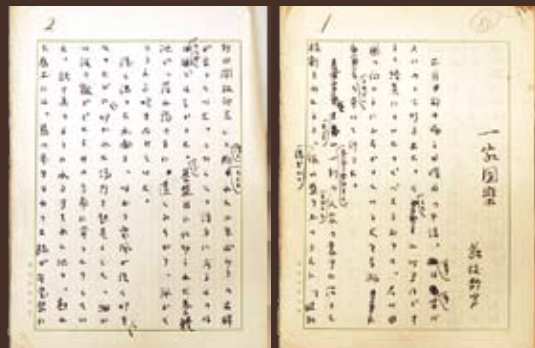


勝見家の家族写真

左から次郎(藤枝静男)、宣(弟)、鎮吉(父)、秋雄(兄)、きく(妹)、ふゆ(姉)、ぬい(母)



「勝見薬局」の薬研・薬匙など(個人蔵)



「一家団樂」原稿(浜松文芸館蔵)



藤枝静男 昭和5年頃  
蓮華寺池のほとりにて

右「離祭り」に登場する聯  
「母と娘が生きる幸とて離祭る 鈴石」



## 藤枝静男

(1908-1993)

本名は勝見次郎。藤枝町市部(現在の藤枝市本町)に勝見薬局の次男として生まれ、小学校を卒業するまで藤枝で過ごした。旧制第八高等学校(現・名古屋大学)時代に志賀直哉に出会い終生師弟関係が続けた。その後千葉医科大学(現・千葉大学)を卒業し眼科医となったが、無類の文学好きで、1947年、雑誌『近代文学』に処女作「路」を発表。やがて確固たる新しい私小説世界を構築し注目された。『悲しいだけ』で野間文芸賞など数々の文学賞を受賞している。

藤枝静男作品の大半は郷里藤枝を舞台とし、生家があった大手界隈や菩提寺の岳叟寺周辺など、大正から昭和初期の藤枝の様子を数多く書き残している。

作家が見つめた「むかしむかしの藤枝町」

平成24年  
11月13日(火)

平成25年  
1月24日(木)

藤枝市郷土博物館・文学館

〒426-0014

静岡県藤枝市若王子500

TEL: 054-645-1100

FAX: 054-644-8514

## ■関連イベント

※申込/どちらも電話かFAXで郷土博物館・文学館へ

- はんこづくりワークショップ 藤枝静男も好んだ篆刻の世界を体験しよう!

と き/11月23日(金・祝) 13:30~15:30

ところ/郷土博物館視聴覚講座室

協力/静岡県印章業協合組合

定 員/15名(申込順)

参加料/500円

- スペシャルトーク「父・藤枝静男を語る」

家族が語る藤枝静男の姿! 作家としての一面に加え、その人柄に迫ります。

と き/12月9日(日) 午後2時~3時

ところ/文学館講座学習室

ゲスト/安達章子氏(藤枝静男長女)

※参加無料(入館料が必要です)